

「おいしい東北パッケージデザイン展2020」受賞作品リスト

おいしい東北パッケージデザイン展2020

001

グランプリ・優秀賞(東北農政局長賞)

白河高原清流豚「豚ロースの三五八漬け」(仮称) | 【福島県白河市】有限会社肉の秋元本店



作品コンセプト

「白河高原清流豚」と「三五八漬け」の融合を、白河高原をイメージした山形紋と「三五八」を豚の鼻形に組み込んだロゴマークで表現しました。
どこことなく豚の顔にも見えるユーモラスと、家紋のような老舗の安心感を訴求したロゴマークが、売場での旗印となり、お客様の目を引きまします。
末広りの掛け紙のカタチは、清流をイメージし、中身の色味と連動しています。
既存商品「味噌漬け」も統一デザインとし、「三五八漬け」との紅白セット販売により、吉兆を感じる紅白の末広りの掛け紙が「お客様の幸せづくり」につなげること願うデザインしました。

佐藤 慎
Makoto Sato

宮城県/一般
株式会社トッパングラフィック
コミュニケーションズ



クリエイティブディレクター。山形県出身。
東北芸術工科大学卒業後、ラベル印刷会社、
広告代理店勤務を経て、現職。おいしい東北
パッケージデザイン展2018奨励賞受賞。

おいしい東北パッケージデザイン展2020

002

優秀賞(岩手県知事賞)

南部一郎かぼちゃスープ | 【岩手県一関市】骨寺村荘園カボチャ研究会



作品コンセプト

南部一郎は熟成させることで甘さを引き出している。
そのことが伝わるよう、ワラの上に並べて熟成させている南部一郎をキービジュアルにし、コピーを添えました。
パッケージを並べて陳列すると風景が広がっていくイメージでデザインしています。
特徴的なかぼちゃの形が伝わるようシンプルなイラストで表現し、かぼちゃの認識を補完するためパッケージ全体の色合いはかぼちゃらしくしました。
パウチをラベルと一緒に湯煎するのに少し抵抗があるのでヘッダー型を提案します。

横山 勇太
Yuta Yokoyama

青森県/一般
YAMABATO



1974年生まれ。青森県出身。グラフィックデザイナー。
おいしい東北パッケージデザイン展2017奨励賞受賞、おいしい東北パッケージデザイン展2018優秀賞受賞。

おいしい東北パッケージデザイン展2020

003

優秀賞(宮城県知事賞)

七つ森ふもと舞茸 | 【宮城県黒川郡大和町】農事組合法人麓上舞茸生産組合



作品コンセプト

- スーパーマーケットで見かける舞茸のパッケージは、筆文字や遊びのある書体などで商品名が記されている場合が多くあると感じました。
- また、商品棚で視覚に訴えるビジュアル+ブランドを覚えてもらうために他の商品にない、独自のシンボルマークが必要であると考えました。ブランドとしての信頼・安心と高級感を伝えることができます。
- そこで、七つ森という土地を伝えるシンボルマークをデザイン。「七つの山が連なる風景」と商品の特徴である舞茸の「葉っぱ」をシンボリックに表現しています。
- 一般的な舞茸とくらべて、品質の高い同商品の味、香り、食感を伝えるためのコピーを開発。「七つ森のふもから、舞茸のいただきへ。」という生産者の想いと、品質への追求・こだわりを表現しました。

佐藤 翔吾 Shogo Sato

北海道/一般
株式会社北日本広告社



1992年生まれ。北海道小樽市出身。北海道情報大学卒業後、株式会社北日本広告社に所属。グラフィックデザイナー。デザイン制作全般から、コピーなども手がける。

おいしい東北パッケージデザイン展2020

004

優秀賞(東北経済産業局長賞)

KAVERS(カヴァーズ) ブローチ | 【秋田県仙北市】有限会社富岡商店



作品コンセプト

初めてこの商品を見る人でも樺細工で作られたという事が分かるように、またブローチの柄が外からでも覗けるようにと樺の形に切り抜きをした箱の蓋にしました。多くの年代の方が手に取りやすいように白い正方形の箱でシンプルかつミニマルな印象を目指しました。伝統品をより親しみやすく、モノづくりの丁寧に価値を伝える仕事ということを後押ししたいと考えました。

箱をディスプレイした時に遠くから見ると樺が並んでいるように見える事で、この商品が気になり手に取るきっかけになってほしいという思いで制作しました。多くのパターンとカラーのブローチの一点物を選ぶ楽しさを箱を通じて伝わらいいなと思います。

渡辺 里彩 Risa Watanabe

新潟県/学生
長岡造形大学



1999年生まれ。福島県出身。長岡造形大学視覚デザイン学科に在籍。パッケージ、ブランディングを中心にグラフィックデザインを勉強中。

おいしい東北パッケージデザイン展2020

005

優秀賞(秋田県知事賞)

小野こまち 特別純米酒 | 【秋田県湯沢市】秋田県醗酵工業株式会社



作品コンセプト

商品の特長である「芳醇な香りとふくらみのある味わい」の文章からふんわりとした女性性を感じたので、世界三大美女とも謳われる「小野小町」と秋田のイメージでもある「秋田美人」をテーマに、清廉で上品、そしてどこか可愛らしさも感じられるイメージになるよう意識して制作しました。

原料でもある「秋田県産あきたこまち」をイメージしたお米の柄の中に、一粒だけ小野小町を連想させる着物を着せた表現で、上品さの中に映える優美さを目を引くワンポイントとして加えています。

また、涼しげでスッパリした印象を与えるうっすらとした青みのある色をベースにすることで、天然水を使用し極寒の中で仕上げられた商品背景を表現できると考えました。

足立 琴美 Kotomi Adachi

愛知県/一般
株式会社荒川商事



愛知県出身。名古屋学芸大学デザイン学科を卒業後、2020年に株式会社荒川商事へ入社。デザイナーとして食品を中心としたパッケージデザインを手掛ける。

おいしい東北パッケージデザイン展2020

006

優秀賞(山形県知事賞)

紅花香茶 | 【山形県米沢市】株式会社桑名園本店



作品コンセプト

全体のトーンを紅花の黄色と赤（オレンジ）の色で打ち出し、絵柄には紅花の花びらを入れ、紅花の綺麗な色彩を表現しました。

文字はシンプルにし、紅花の色と花びらで消費者の視線をひきつけるデザインに仕上げました。

外装の形状はブック式にし高級感を出しました。香茶包材と外装のデザインを合わせ、箱をあけても黄色とオレンジのLineが同じように出るようにし、統一感を持たせました。

コスト面も考え外装は3色、香茶包材は2色でデザインしました。

村上 真也 Shinya Murakami

宮城県/一般
高速シーパック株式会社



1978年宮城県生まれ。仙台デザイン専門学校卒業。現在、高速シーパック株式会社に在籍。おいしい東北パッケージデザイン展2019奨励賞受賞。

おいしい東北パッケージデザイン展2020

007

優秀賞(福島県知事賞)

純米吟醸「あらかわ」の酒かすで作る「酒かすの塩」 | 【福島県福島市】荒川桜づつみ酒づくり協議会



作品コンセプト

他の塩とは成り立ちが異なる商品であり、「荒川から汲み上げた酒を合わせて作られた塩である」ということを、うまくビジュアルで表現できないかとまず考えました。荒川の2文字をビジュアル化し、水質は日本一であることをブルーのワンポイントで表現。さらに酒を象徴する盃をデザインに込めました。白地を多くとり、シンプルに2cですっきり見せることで商品の特性を際立たせることができなないかと思いました。今後、瓶での展開も考えているとことで、ジップロックと合わせて瓶の帯巻きもデザインしてみました。

上平 稔人 Minoru Uehira

東京都/一般
株式会社ミノルデザイン



1968年東京・浅草生まれ 株式会社ミノルデザイン代表取締役。
JAGDA年鑑2008ジェネラルグラフィックカテゴリー「This One!」、
おいしい東北パッケージデザイン展2015優秀賞ノミネート 他

おいしい東北パッケージデザイン展2020

008

優秀賞(東北経済産業局長賞)

僕の納豆。(仮称) | 【福島県伊達郡川俣町】有限会社カミノ製作所



作品コンセプト

見た瞬間にこれ?と思わせ、一見何の商品かもわからない。まず「ねばって、もつと。」の意味深なコピーがアイキャッチとなり、「おらの、なっとう。」という商品名はあえて小さく記載。とにかくインパクトが強く強烈なパッケージを制作した。全面に埋め尽くされたコピーで消費者への気持ちをストレートに伝えた。そして「おらの、なっとう。」と同様に短く、韻を踏んだ様々なコピーでつい読みたくなるユニークかつ新規性のあるパッケージを目指した。どこにもないレアで奇抜なデザインだからとあえず手にして買ってみる。食べたらちゃんと美味しい。SNSで拡散。そういう話題性を狙った。道の駅でこんな自動販売機があったら思わず買ってしまう!?

石田 英士 Eiji Ishida

東京都/一般
共同印刷株式会社



アートディレクター/グラフィックデザイナー
49th Creativity International Award Gold/
Silver受賞。JPC展入賞。

おいしい東北パッケージデザイン展2020

009

奨励賞

南部一郎かぼちゃスープ | 【岩手県一関市】骨寺村荘園カボチャ研究会



作品コンセプト

『南部一郎』、『かぼちゃのスープ』、『岩手一関特産』この三点に重きをおき、老舗感がでるよう全体的にレトロチックなデザインにしました。かぼちゃのブランドカラー緑、橙、黄色を使い、一目で「ユニークな形のかぼちゃのスープ」だということが伝わるようなデザインにしました。

菅野 文馨 Ayaka Kanno

宮城県/一般
常盤化工株式会社



宮城県仙台市出身。宮城大学食産業学部を卒業後、常盤化工株式会社に入社。

おいしい東北パッケージデザイン展2020

010

奨励賞

南部一郎かぼちゃスープ | 【岩手県一関市】骨寺村荘園カボチャ研究会



作品コンセプト

白を基調とした中に、水彩タッチの南部一郎かぼちゃのイラストを大きく入れることでキャッチーなかぼちゃの形がまず目に入るようなデザインにしています。一方、全体的には落ち着いた印象にまとめ、高級感を演出しています。また、岩手県の形を模した「南部一郎」ロゴを配置し、南部一郎かぼちゃの説明を入れることで、岩手県の特産品であることが伝わるようにしました。ご年配の方にも分かりやすくシンプルに、かつ若者が好むモダンなデザインにし、幅広い層に手に取っていただけるようにしました。

浦田 類 Rui Urata

愛知県/一般
株式会社荒川商事



愛知県出身。愛知県立芸術大学美術学部デザイン科卒業。雑貨メーカーのデザイン職を経て、2018年に株式会社荒川商事に入社し、数多くのパッケージデザインを手掛ける。



作品コンセプト

- 七つ森ふもと舞茸の一番の特徴である「葉っぱ」に着目。「葉っぱ」は舞茸のおいしさ(味・香り・食感)を決める大切な部分であり、他商品と差別化する重要な要素であることからモチーフとしました。
- 生産者の愛情(=ハート)が七つ森のふもとから広がっていく様子を7つの葉を使い家紋風のシンボルマークとして表現。
- 舞茸を想起させるカラーであり、高級感を出すため擬似的な金色をキーカラーとしました。
- また、ブランドの温もりや丁寧な栽培を伝えるとともに、安心・信頼を感じられるコビーを添えました。
- 葉の厚みから生まれる食感や香り高いことから、ラベルも堂々としたデザインを目指し、気になって手に取ってもらえるパッケージを目指しました。

佐藤 翔吾 Shogo Sato

北海道/一般
株式会社北日本広告社



1992年生まれ。北海道小樽市出身。北海道情報大学卒業後、株式会社北日本広告社に所属。グラフィックデザイナー。デザイン制作全般から、コビーなども手がける。

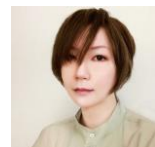


作品コンセプト

商品名を耳にしたときに、深い夜の森に香りを放ちながら生えてくる舞茸の姿が思い浮かびました。
商品の特長である「香りの良さ」を伝えるため、ラベルシールを貼ると舞茸が森のように見えるように七股に分かれた木の幹をモチーフにデザインしました。
舞茸が「木の子」である木を連想させ、フィルムが曇ってしまっても、霧がかかったような幻想的な森のようにみえます。その木のふもとで、「舞茸」の名前の由来の一説にある「舞い上がって喜ぶ」様子の森のくまさん。
七つ森の食材が豊富で楽しそうな様子を表しています。
商品から「七つ森ってどんなところだろう」と産地や場所自体にも興味をもってもらえるような商品になって、このラベルのシルエットでブランド力を高めたいです。

中西 唯 Yui Nakanishi

千葉県/一般
朋和産業株式会社



和歌山県生まれ。武蔵野美術大学基礎デザイン学科卒。食品を中心とした商業デザイン全般を手掛ける。パッケージデザインコンテスト北海道2017審査委員賞受賞。

おいしい東北パッケージデザイン展2020

013

奨励賞

KAVERS(カヴァーズ) ブローチ | 【秋田県仙北市】 有限会社富岡商店



作品コンセプト

デザイン対象は箱となっておりますが現行品の貼箱以外の箱で提案した場合、サイズ的に箱を組み立てる時の難しさがあるので箱という提案ではなく封筒型の形態でのご提案と致しました。開封しなくても商品自体がうっすらと見えるように材質はトレーシングペーパーを使用、デザインはブローチのデザインがメインとなるように、ほぼデザインは正面には入れずに、開けたときに出てくる台紙に山桜の木目をイメージした木目柄を白色でうっすらと入れる程度にしております。シンプルですがうっすらと中身が見えることで上質感を感じられるデザインを目指しました。

奥本 隆

Takashi Okumoto

北海道/一般

クリエイティブオフィスメッセンジャー



1976年生まれ。包装資材会社デザイン室、吉本興業にてお笑い芸人を経て、クリエイティブオフィスメッセンジャー設立。おいしい東北パッケージデザイン展2018・2019 奨励賞受賞。

おいしい東北パッケージデザイン展2020

014

奨励賞

KAVERS(カヴァーズ) ブローチ | 【秋田県仙北市】 有限会社富岡商店



作品コンセプト

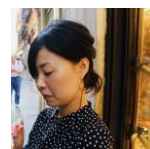
樺の木をブローチと同じ円形で配置し、情緒的な世界感を表現しました。樺の木の森の奥に宝物のようにブローチが置かれているイメージです。それぞれのデザインのカラーを箱にも使用し、店頭に並んだ時にカラフルで華やかな印象になります。ロゴは箔押しを使用し、正面から見た時左上の部分で紙同士の重なりをあえて見せ、折り紙のような、日本的な上品さも表現できたらと考えました。一箇所以外はすべて山折りで作製でき、とても簡単に組み立てられます。あくまで商品を守り、引き立てるためのパッケージですが、店頭では商品と一体化したひとつの作品のように見せることが出来たら、そして商品を取り出した後も、取っておきたくするような箱が出来たら、そんな思いを込めました。

押杵 ゆり子

Yuriko Oshikine

東京都/一般

株式会社DNPテクノパック



埼玉県出身。中央大学経済学部卒業。株式会社DNPテクノパックに在籍、食品やトイレタリー関連の商品を中心としたパッケージのデザイン・制作を行なっている。

おいしい東北パッケージデザイン展2020

015

奨励賞

小野こまち 特別純米酒 | 【秋田県湯沢市】秋田県醗酵工業株式会社



作品コンセプト

小野こまちなを冠した商品であることを最大限にアピールしたいと思い、小野こまちキャラクターをデザインしてみました。平安時代風な感覚を残しつつ、現代的で可愛らしく、こけし、あるいはマトリョーシカ人形のように見せたいと考えました。瓶を黒にして、できるだけシンプルで、色数も抑えて強く印象に残るラベルにしたいと思いました。

「小野こまち」の商品名も小さくなりすぎず、キャラクターに合わせてすっきりと見える書体で組んでいます。ターゲットとして女性も視野に入れながら、召し上がっていただく多くの方を共感を得るデザインができればと思いました。

上平 稔人 Minoru Uehira

東京都/一般
株式会社ミノルデザイン



1968年東京・浅草生まれ 株式会社ミノルデザイン代表取締役。
JAGDA年鑑2008ジェネラルグラフィックカテゴリー「This One!」、
おいしい東北パッケージデザイン展2015優秀賞
ノミネート 他

おいしい東北パッケージデザイン展2020

016

奨励賞

小野こまち 特別純米酒 | 【秋田県湯沢市】秋田県醗酵工業株式会社

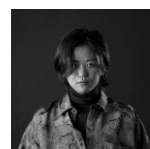


作品コンセプト

日本の家紋を思わせるような、シンプルでソリッドなロゴタイプでデザインしました。
落款を散りばめ、昔の書物を思わせるようなラベルに。
首のラベルは、小野こまちなを彷彿とさせる巻物に、小野こまちなが作った句が載っています。

小竹 葉月 Hazuki Kotake

北海道/一般
株式会社ティービーバック



1996年北海道生まれ。おいしい東北パッケージデザイン展2019優秀賞受賞。パッケージデザインコンテスト北海道2019奨励賞受賞。



作品コンセプト

絵柄は紅花の花びらをシンプルに表現しました。色彩は紅花の綺麗な花びらの黄色（オレンジ）と紅色で表現しました。ターゲットの女性から好まれるように可愛らしさ、綺麗さ、高級感を意識しデザインしました。形状はキャラメル型にし、売り場にも展開しやすく、手にも取りやすいサイズ感にまとめました。コスト面も考え外装は3色、中の包材は2色でまとめました。

村上 真也 Shinya Murakami

宮城県/一般
高速シーバック株式会社



1978年宮城県生まれ。仙台デザイン専門学校卒業。現在、高速シーバック株式会社に在籍。おいしい東北パッケージデザイン展2019奨励賞受賞。



作品コンセプト

最上紅花を伝える商品に、ということだったので、最上紅花をデフォルメした形で表現し、梅コンプ茶ですが、商品名だけではわかりづらいと思い、紅花と梅を表現した外装パッケージにしています。箱を開封すると蓋の内側部分に最上紅花の説明を入れ、最上紅花のことが知ることができるようになっていきます。内装は紅花だけのデザインにしていますが、ちょうど切れ目が花の部分と茎・葉の部分でわかれるようになっていて、自分で花を摘んでいるような気持ちになれるようなデザインにしました。開封するということを楽しみたいと考えてデザインしました。

河上 ヒカル Hikaru Kawakami

新潟県/学生
長岡造形大学



1999年生まれ、熊本県出身。長岡造形大学視覚デザイン学科在学中で、主にブランディングデザインなどを勉強中。

純米吟醸「あらかわ」の酒かすで作る「酒かすの塩」 | 【福島県福島市】荒川桜づつみ酒づくり協議会



作品コンセプト

荒川的美しさと荒川から作られた塩の魅力を、「純粋で澄み渡っている」と捉え、それが伝わるようなパッケージデザインを制作した。
まず、全体の色数を抑えることで無駄なものがない・澄んだ印象とし、高級感を出した。
色数を少なくすることで様々な媒体での展開しやすさも考慮している。ロゴの絵柄には荒川周辺の福島市の風景（吾妻連峰・桜づつみ公園・堰提・橋）を使用した。主な販売地域にあたる福島市の人には愛着が感じられるように、福島市外の人には福島市の環境・魅力が伝わるような意図を込めた。
ロゴの形は塩の結晶をイメージし、角ばった形を用いた。
合わせて商品名フォントも先が鋭い印象のものを用い、澄んだイメージを強調している。
ネーミングは「純米吟醸あらかわの芳醇酒粕塩」とした。「純米吟醸あらかわ」がパツと見たときに高級感を感じさせ、「芳醇」と入れることで塩の特徴である香り高さを想像させるようにした。

大原 菜桜子 Naoko Ohara

神奈川県/一般
大和製罐株式会社



1991年生まれ。福岡県出身。多摩美術大学グラフィックデザイン学科卒業後、2014年大和製罐株式会社入社。商品デザイン室にてパッケージを中心にグラフィックデザイン全般を担当。

純米吟醸「あらかわ」の酒かすで作る「酒かすの塩」 | 【福島県福島市】荒川桜づつみ酒づくり協議会



作品コンセプト

実物の塩を拝見しますと、通常の塩と比べ若干黄色味がかったいました。おそらく酒粕成分の影響だと思われます。現在では様々な塩が販売されていますが、黄色い色をした塩は多くありません。そこでその色味も品質訴求の大きなポイントと捉え、パッケージ内の塩を見せるようラベルは前面を覆わないようにしました。
清酒で利き酒をする際には、白い陶器の底に青い二重円が描かれた猪口「利き猪口」を使用し、液色を確認します。それと同じことをこの酒粕塩のパッケージで再現するためにロゴタイプに青い二重円を使用しました。また、二重円の青は荒川の清らかな水質も表しています。
ロゴに大きくあしらった「塩」は、清酒で古来から使用される「髭文字」を使用しています。
「二重円」と「髭文字」を前面に主張し、視覚的にも清酒由来の塩であることを表現しました。

神谷 雅裕 Masahiro Kouya

大阪府/一般
フリーランス



アートディレクター／グラフィックデザイナー
1971年福岡県生まれ。京都工芸繊維大学卒業。
印刷会社、酒造会社を経て商品デザイン、広告、Webと幅広く携わる。

おいしい東北パッケージデザイン展2020

021

奨励賞

僕の納豆。(仮称) | 【福島県伊達郡川俣町】有限会社カミノ製作所



作品コンセプト

ターゲットである男性ウケを狙い、『馬鹿』の名がついたネーミングで奇抜かつ独自性を訴求した案。商品名の『馬鹿』は<裏表がなく素直で純粋>、<やけに><とても>という意味で用い、「混ざりけがなく利害得失関係なしに純粋に美味しい納豆を作りたいという思いで完成させた自慢の品」であることの意。一瞬奇をてらっただけの商品かと思わせて、作り手の思いを表した「正直」「真剣」「丹念」「真面目」の文言とコピーを合わせて読むことで『馬鹿』命名の意味が理解できる仕組み。挑発的なネーミングに相まった印象的なタイポグラフィとシックな色味で、おふざけと真面目の融合による面白さや引っかかりで独特な世界観を醸成しました。

熊谷 真 Makoto Kumagai

宮城県/一般
株式会社高速



広告代理店の営業を経て、雑誌『広告批評』主催『広告学校』で修学し商業デザイナーに。2017年同コンペ奨励賞、クラブハリエ『ニューイヤーバーム2014』グランプリ受賞。

おいしい東北パッケージデザイン展2020

022

奨励賞

僕の納豆。(仮称) | 【福島県伊達郡川俣町】有限会社カミノ製作所



作品コンセプト

カミノ製作所の生産者さんによる納豆の育て方を親と子供という形に置き換えストーリー性のあるパッケージデザインにしました。納豆を作る工程を母の子育てと重ね合わせることで、分かりやすく親近感の感じられるデザインにしました。思わず見入ってしまうような納豆のパッケージにする為、イラストは抜け感のある硬すぎないタッチにし、ストーリーを読みたくくなるデザインにしました。カミノ製作所のカミを取って「おかみさん」と「おマメ」としています。商品名にもある通り「我が子の旅立ち」と言うことからめでたさを出す赤色をメインカラーにしました。横の柄には門出を祝う花をイメージした納豆の花を柄として使用しています。めでたさや幸運を運んでくれそうなパッケージデザインになっています。

村上 ひまり Himari Murakami

岩手県/学生
MCL盛岡情報ビジネス&デザイン専門学校



2001年生まれ、岩手県出身。盛岡情報ビジネス専門学校総合デザイン科グラフィックデザイン専攻。



作品コンセプト

三五八漬けは私の地元秋田にもあり、名前はよく耳にし、三五八漬けの素もスーパーで販売されていますが、私は今までに一度も食べたことがありません。

20代以下にはあまり身近で馴染みのある食べ物ではなくなってきているのではと感じています。

そんな中、貴社の豚ロースを三五八漬けで漬けた料理は、私の中で三五八漬けは野菜などの漬物だけというイメージを覆されました。

どんな味なんだろうとワクワクしています。私含め、三五八を食べたことがない人、そもそも何が358なのか知らない人に届くよう、「塩・麹・駒」の割合が3:5:8なのだとこのをまず伝えたいと思い、358の数字を大きく出すデザインにしました。

お客様が売場等でパッと見てまず目に入る「3と5と8って何?」と思って手に取り、その後、横の文章まで目を通していただく、という流れで商品を手に取る、魅力を知る、購入するという流れにできればと思います。

高橋 あやみ

Ayami Takahashi

秋田県/一般
株式会社オアシス



1994年秋田県大仙市出身。盛岡情報ビジネス専門学校卒業。タウン情報誌・フリーペーパーの取材・編集・撮影や広告制作を中心に、グラフィックデザインを手掛ける。



作品コンセプト

秋元本店様の「お客様の幸せづくり」というコンセプトのもとに、手に取った人、商品をもたらした人が笑顔になれるようなパッケージを目指した。

商品一つひとつをお客様に届ける手紙と捉え、封筒をイメージし制作。

商品ロゴは「お米」を桜の花弁に見立て清流豚と三五八漬けとの「新しい出会い」を表現した。

セットでの販売も考慮し、味噌漬けのパッケージも合わせて制作。

味噌漬けのロゴは大豆を梅の花に見立て「祝い」を表現した。

※パッケージには防水加工を想定

佐藤 タカズミ

Takazumi Sato

青森県/一般
株式会社ツクリダス



1990年生まれ。SKK情報ビジネス専門学校卒業。現在は株式会社ツクリダスの社員として主にポスター、チラシ、パッケージなどのグラフィックデザインを手がける。おいしい東北パッケージデザイン展2019奨励賞。

おいしい東北パッケージデザイン展2020

025

学生優秀賞

七つ森ふもと舞茸 | 【宮城県黒川郡大和町】農事組合法人麓上舞茸生産組合

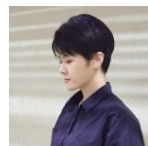


作品コンセプト

本製品のビジュアルを考えていく上で、七つ森の自然の豊かさ、七つ森ふもと舞茸の魅力である「味・食感・香り」に着目しました。自然の豊かさをビジュアルで伝えるために色数を少なくして素材感出し、商品名のタイポグラフィは舞茸の形・品のある香りを表した高級感のある印象に仕上げました。七つ森を模したイラストはカジュアルな印象を避けつつ、タイポグラフィを引き立てるようなギャップを持たせるため水墨画を意識したイラストにし、山の名称を記載することで自然環境の良さと地域のアピールを図っています。本製品の魅力を消費者に伝えるために目を引くコピーを側面に載せ、舞茸の魅力などストレートな思いをメッセージとして記載しました。

大越 茉未子 Mamiko Ogoshi

岩手県/学生
MCL盛岡情報ビジネス&デザイン専門学校



2001年生まれ。盛岡情報ビジネス&デザイン専門学校デザイン科グラフィックデザインコース1年。

おいしい東北パッケージデザイン展2020

026

学生優秀賞

KAVERS(カヴァーズ) ブローチ | 【秋田県仙北市】有限会社富岡商店



作品コンセプト

パッケージ全体で一本の木を表しました。商品写真を使用したシールを木の幹の位置に配置し、山桜樹皮を原材料に作られたことを表現しました。商品の中身を見せつつコストを抑え、商品にホコリが被らないという要望を叶えるために商品それぞれの柄の種類に合わせた写真のシールを使用するという案に至りました。商品を並べた時にそれぞれ同じように見えて一つ一つ表情(柄)の違う、小さな木が並んだ林のように見せることができます。色はシール部分以外は白と黒のみを使用し、商品写真を目立たせるとともにシンプルな高級感を演出しました。使用する紙は白色のマットで手触りの良い紙を想定しています。シールを貼っていないモックアップは開けることができます。

佐々木 瑠菜 Runa Sasaki

岩手県/学生
MCL盛岡情報ビジネス&デザイン専門学校



2001年生まれ。岩手県盛岡市出身。盛岡情報ビジネス&デザイン専門学校デザイン科グラフィックデザインコース在籍。

おいしい東北パッケージデザイン展2020

027

学生優秀賞

純米吟醸「あらかわ」の酒かすで作る「酒かすの塩」 | 【福島県福島市】荒川桜づつみ酒づくり協議会



作品コンセプト

この商品に使われている、十年連続水質日本一である荒川の「水質の良さ」を伝えるため、タイポグラフィーをメインとしたシンプルなデザインを制作した。タイポグラフィーにぼかしを加えることで荒川の水の透明感を演出しつつ、墨溜まりと文字の点を塩の結晶をモチーフとしたデザインにすることで、箱を作って「酒と塩」の文字だけはみ出させることで一目でこの商品のイメージがわかるデザインとした。

柏葉 敬 Kei Kashiwaba

岩手県/学生
MCL盛岡情報ビジネス&デザイン専門学校



2001年生まれ。岩手県出身。
2020年盛岡情報ビジネス&デザイン専門学校入学。

おいしい東北パッケージデザイン展2020

028

学生優秀賞

白河高原清流豚「豚ロースの三五八漬け」(仮称) | 【福島県白河市】有限会社内の秋元本店



作品コンセプト

「三五八漬け」という名前を覚えてもらえるようなデザインにすることを大前提として、前からお店に並べてあったかのような懐かしさと親しみやすい可愛いらしさを感じられるラベルにしました。本商品にはオリジナルブランド豚であることや、三五八漬けというコアな郷土料理であること、麩に漬けることでお肉がより美味しくなることなど売りポイントが盛りだくさんの商品なので、伝えたいことが入るだけ入れられるデザインにしました。白河高原清流豚の名前の涼しげな雰囲気や、強い味付けをするのではなく肉の旨味を最大限に引き立てるといった麩の縁の下の力持ち的な印象を、しなやかで芯を感じる細い毛筆のタイポグラフィで表現しました。「豚」の字の部分は豚のしっぽのようになるとした印象にしています。使用しているピンク色は豚の鼻の色や、お肉の赤と三五八の白を混ぜ合わせたピンクをイメージして、ラベル全体の雰囲気を商品と馴染むようにする狙いがあります。

千葉 潔孝 Kiyotaka Chiba

岩手県/学生
MCL盛岡情報ビジネス&デザイン専門学校



1995年生まれ。グラフィックデザインを勉強しながら、kuromameという屋号で盛岡を中心にグラフィックデザイナーとして活動中。おいしい東北パッケージデザイン展2019審査員賞受賞。

おいしい東北パッケージデザイン展2020

029

審査委員賞(加藤芳夫賞)

紅花香茶 | 【山形県米沢市】株式会社桑名園本店



作品コンセプト

「旅を持ち帰る」をコンセプトに製作しました。紅花畑は、1年のうちに見える時期が限られています。そこで、いつ訪れても紅花畑をみた気分になれるように、そしてそれをお土産にできるようにしたいと思いました。8連のバックを活かして、紅花畑が続くようなイラストにしています。女性がお菓子を買う感覚で選んでもらえるように、窓から中身が見えるかたちと、明快な色にしました。外装・内装共に2色展開し、カラフルな印象にする効果と、この色は自分用、この色はお土産用 というように、誰かに分けたくなるような効果を狙っています。



遠藤 はるか Haruka Endo

宮城県/学生
東北生活文化大学



2000年生まれ。宮城県出身。東北生活文化大学美術表現学科2年。グラフィックデザインを中心に勉強中です。

おいしい東北パッケージデザイン展2020

030

審査委員賞(大迫修三賞)

南部一郎かぼちゃスープ | 【岩手県一関市】骨寺村莊園カボチャ研究会



作品コンセプト

南部一郎の「ユニークな形」と、「出荷できる状態での色」が印象的であることから、「南部一郎かぼちゃ」と「黄金比」を合わせたデザインにしました。外枠をつけることで絵画のような印象を感じるデザインにし、高級感を出しました。また、黄金比という単語からは、高級感や美味しさのイメージが伝わりやすいと思い、商品名にも黄金という単語を入れました。



塩塚 みのり Minori Shiotsuka

神奈川県/学生
相模女子大学



1998年生まれ。神奈川県出身。相模女子大学生生活デザイン学科在学中。グラフィックデザインやプロダクトデザインを主に勉強中。

おいしい東北パッケージデザイン展2020

031

審査委員賞(小板橋基希賞)

僕の納豆。(仮称) | 【福島県伊達郡川俣町】 有限会社カミノ製作所



作品コンセプト

ネーミングからふくらんだイメージをストレートに表現しました。納豆頭の男の子が真面目に納豆について考えています。積み上げるとたくさんの納豆くんが真摯に私たちを見つめてくることになりました。この様子が自動販売機や店頭で大きなインパクトをもってユーザーの心をとらえようと考えています。今後のコラボレーション展開によって、納豆くんのフレンドがどんどん増えていきます。楽しくて新しい納豆ワールドを作っていきましょう。またサイドにある耳は糸やリボンを通すとギフトになります。

本多 り子 Riko Honda

東京都/一般
asianvoice



アートディレクター/グラフィックデザイナー
asianvoice代表 JAGDA会員/総合デザイナー協会正会員 ブランディングをメインに活動中。
猫派。

おいしい東北パッケージデザイン展2020

032

審査委員賞(左合ひとみ賞)

純米吟醸「あらかわ」の酒かすで作る「酒かすの塩」 | 【福島県福島市】 荒川桜づつみ酒づくり協議会



作品コンセプト

荒川の伏流水を使用した純米吟醸あらかわの酒かすを使用した塩をいうことで、杉玉の中に商品名「酒かすの塩」を入れ、蔵のようなビジュアルにしました。蔵のなまこ壁の部分を、荒川の水の流れのように見立てました。荒川の水質の美しさを表現するために魚も跳ねています。色は、荒川の水質の美しさを表現するために美しい川の流れをイメージした爽やかな水色にしました。

主濱 景子 Keiko Shuhama

東京都/一般
川口印刷工業株式会社



アートディレクター/グラフィックデザイナー
岩手県盛岡市出身。
2015・2016・2019年おいしい東北パッケージ展 優秀賞。
2017年岩手ADC賞など。JAGDA会員。



作品コンセプト

紅花の鮮やかな色彩と、紅花香茶にブレンドされているしそと昆布をイメージした深い緑をアクセントに、デザインしました。外装には、女性に向けてイラストレーションを多く使用し、お茶を飲み切っても捨てずに取っておきたくなるようなデザインにしました。

また、お土産や贈り物として利用されていることから商品タグをリボンで結び、可愛らしさも演出しつつ、贈り物の雰囲気を感じられるように加えました。

紅花は古くから染料や口紅などに使われていたことから、染め物のようなシルエットのイラストレーションに紅花の鮮やかなオレンジで色付けし、深い緑を背景にのせ、店頭に並んでも目に付くような色彩にしました。



橘 みら乃

Mirano Tachibana

岩手県/学生

MCL盛岡情報ビジネス&デザイン専門学校



2001年生まれ。岩手県出身。2020年盛岡情報ビジネス&デザイン専門学校入学。幼い頃から絵を描くのが好きで、現在グラフィックデザインを勉強中。